

祝祭日には国旗を掲げましょう。

大阪天満宮社報 第71号

てんまてんじん

年首御慶

丁酉 元旦

てんま天神梅まつり	3 頁
天満天神えびす祭十周年	4 頁
神社スカウト全国大会	7 頁
イスラエル・アジア 宗教指導者の集い	8 頁
萎装束の天神画像奉納	9 頁
大阪音大の天神祭資料奉納	12 頁



表紙解説

菅公像

藤沢南岳贊 津端道彦画

大阪天満宮所蔵 絹本着彩色
縦一〇・二cm 横四一・八cm
大正七年（一九一八年）一幅
松浦清（大阪工業大学准教授）

冠を被り、袍を着て、笏を持つて坐る道眞公の姿を描いた作品です。

このような作品は、しばしば天神像と呼称されますが、ここでは、菅公像として紹介します。天神＝菅公の像として、区別は不要との考え方もあるでしょう。しかし、本図には江戸時代まで描き継がれてきた一般的な天神画像とは、やや異なる表現が認められます。

冠の形状が垂縷で、袍の色を黒とし、袍の下から下襲の裾を後方に長く曳く装束は、朝廷の儀式などで着用する束帶という正装です。平緒で太刀を佩用する姿は、勅許を得た高位の文官の姿です。このような装束は天神画像に通有で、中世以来長く描き継がれてきました。本図の装束はまさに天神画像のそれです。

しかし、一般的な天神画像の面貌表現が、怒り天神の伝統を踏まえて血走った瞋目であり、唇を強く噛むことが多いのに對して、本図では、怒りの表情は全く窺えません。

天子の寵愛を受けて、朝議全般を補佐し、学問は美德を顯す一方、政務は優れた計略で実施された。このように菅公は、古来変わらぬ眞の儒者である。

天子の寵愛を受けて、朝議全般を補佐し、学問は美德を顯す一方、政務は優れた計略で実施された。このように菅公は、古来変わらぬ眞の儒者である。

菅公は、理想的な儒者としての菅公に對するオマージュであり、決して怨けられた天神像は、時代の変化に応して変質し、江戸時代ともなると中世以来「怨靈神」として描き続

みます。怒り天神の表現は、影を潜め、柔軟な表情で描かれるようになります。

菅公像としての性格が積極的に示されるようになります。怒り天神の表現は、影を潜め、柔軟な表情で描かれるようになります。

大阪天満宮
盆梅と盆石展



天神梅と盆石展

開催期間中は、樹齢二百年を越える古木をはじめ様々な品種の盆梅と、深山幽谷などの山水景を思わせる瓜谷石の盆石をご鑑賞いただきます。

天神梅まつり」も、今年で十三回目を迎え、二月十一日（土）から三月十二日（日）まで開催します。期間中は、入場料：大人五百円、小学生以下三百円）。
「天神梅と盆石展」を、参集殿において開催します。（開場時間：九時三十分～十六時。
「天神梅と盆石展」を、参集殿でご観賞いただけではなく、来宮の皆様により一層楽しんでいた
だけるよう、様々な催し物も行つておりますので是非ご来宮下さい。

「梅まつり」を始めた当初は、盆梅だけを展示する「盆梅展」でした

が、第十回を機に、盆梅のほかにも当宮所蔵の名宝等を併せて展示し、さらに第十一回からは盆石も加えて、他所にはない充実した展示だと、大変ご好評を頂いております。

梅の香りが漂う百賀敷きの参集殿において、盆梅、名宝、盆石をご堪能いただきたいと案内いたします。

なお、本年度より、滋賀県長浜市で開催されている「長浜盆梅展」と連携し、双方の拝観者増加を目指し、チラシでの広報、盆梅の交換展示などを行っております。

◆ お花見落語会

二月二十六日（日）と三月四日（土）には、夜間拝観日とし、午後十九時三十分まで入場受付を延長いたします。

◆ 夜間拝観

今回から的新規行事として、三月八日（水）午後四時三十分から、天満宮会館主催の「大阪天満宮寄席・梅展」がございます。盆梅展拝観の後に、お食事と落語会をお楽しみいただけます。

◆ だんじり彫刻見学

二月十八日（土）には、だんじり彫刻を手掛ける「木彫山本一門」をお

週替わりで催し物がございます。

皆様のご来宮をお待ちしております。

振る舞い梅餅

天神梅と盆石展

大阪天満宮所蔵 絹本着彩色
縦一〇・二cm 横四一・八cm
大正七年（一九一八年）一幅
藤沢恒（大阪工業大学准教授）

◆ 丹波道彦印

天神梅と盆石展

大阪天満宮所蔵 絹本着彩色
縦一〇・二cm 横四一・八cm
大正七年（一九一八年）一幅
藤沢恒（大阪工業大学准教授）

◆ 丹波道彦印

天神梅と盆石展

大阪天満宮所蔵 絹本着彩色
縦一〇・二cm 横四一・八cm
大正七年（一九一八年）一幅
藤沢恒（大阪工業大学准教授）

◆ 丹波道彦印

天神梅と盆石展

大阪天満宮所蔵 絹本着彩色
縦一〇・二cm 横四一・八cm
大正七年（一九一八年）一幅
藤沢恒（大阪工業大学准教授）

◆ 丹波道彦印

天神梅と盆石展

大阪天満宮所蔵 絹本着彩色
縦一〇・二cm 横四一・八cm
大正七年（一九一八年）一幅
藤沢恒（大阪工業大学准教授）

◆ 丹波道彦印

天神梅と盆石展

大阪天満宮所蔵 絹本着彩色
縦一〇・二cm 横四一・八cm
大正七年（一九一八年）一幅
藤沢恒（大阪工業大学准教授）

◆ 丹波道彦印

天神梅と盆石展

大阪天満宮所蔵 絹本着彩色
縦一〇・二cm 横四一・八cm
大正七年（一九一八年）一幅
藤沢恒（大阪工業大学准教授）

◆ 丹波道彦印

天神梅と盆石展

大阪天満宮所蔵 絹本着彩色
縦一〇・二cm 横四一・八cm
大正七年（一九一八年）一幅
藤沢恒（大阪工業大学准教授）

◆ 丹波道彦印

天神梅と盆石展

大阪天満宮所蔵 絹本着彩色
縦一〇・二cm 横四一・八cm
大正七年（一九一八年）一幅
藤沢恒（大阪工業大学准教授）

◆ 丹波道彦印

天神梅と盆石展

大阪天満宮所蔵 絹本着彩色
縦一〇・二cm 横四一・八cm
大正七年（一九一八年）一幅
藤沢恒（大阪工業大学准教授）

◆ 丹波道彦印

天神梅と盆石展

大阪天満宮所蔵 絹本着彩色
縦一〇・二cm 横四一・八cm
大正七年（一九一八年）一幅
藤沢恒（大阪工業大学准教授）

◆ 丹波道彦印

天神梅と盆石展

大阪天満宮所蔵 絹本着彩色
縦一〇・二cm 横四一・八cm
大正七年（一九一八年）一幅
藤沢恒（大阪工業大学准教授）

◆ 丹波道彦印

天神梅と盆石展

大阪天満宮所蔵 絹本着彩色
縦一〇・二cm 横四一・八cm
大正七年（一九一八年）一幅
藤沢恒（大阪工業大学准教授）

◆ 丹波道彦印

天神梅と盆石展

大阪天満宮所蔵 絹本着彩色
縦一〇・二cm 横四一・八cm
大正七年（一九一八年）一幅
藤沢恒（大阪工業大学准教授）

◆ 丹波道彦印

天神梅と盆石展

大阪天満宮所蔵 絹本着彩色
縦一〇・二cm 横四一・八cm
大正七年（一九一八年）一幅
藤沢恒（大阪工業大学准教授）

◆ 丹波道彦印

天神梅と盆石展

大阪天満宮所蔵 絹本着彩色
縦一〇・二cm 横四一・八cm
大正七年（一九一八年）一幅
藤沢恒（大阪工業大学准教授）

◆ 丹波道彦印

天神梅と盆石展

大阪天満宮所蔵 絹本着彩色
縦一〇・二cm 横四一・八cm
大正七年（一九一八年）一幅
藤沢恒（大阪工業大学准教授）

◆ 丹波道彦印

天神梅と盆石展

大阪天満宮所蔵 絹本着彩色
縦一〇・二cm 横四一・八cm
大正七年（一九一八年）一幅
藤沢恒（大阪工業大学准教授）

◆ 丹波道彦印

天神梅と盆石展

大阪天満宮所蔵 絹本着彩色
縦一〇・二cm 横四一・八cm
大正七年（一九一八年）一幅
藤沢恒（大阪工業大学准教授）

◆ 丹波道彦印

天神梅と盆石展

大阪天満宮所蔵 絹本着彩色
縦一〇・二cm 横四一・八cm
大正七年（一九一八年）一幅
藤沢恒（大阪工業大学准教授）

◆ 丹波道彦印

天神梅と盆石展

大阪天満宮所蔵 絹本着彩色
縦一〇・二cm 横四一・八cm
大正七年（一九一八年）一幅
藤沢恒（大阪工業大学准教授）

◆ 丹波道彦印

天神梅と盆石展

大阪天満宮所蔵 絹本着彩色
縦一〇・二cm 横四一・八cm
大正七年（一九一八年）一幅
藤沢恒（大阪工業大学准教授）

◆ 丹波道彦印

天神梅と盆石展

大阪

天満天神えびす祭

再興十周年 第十一回



去る平成十九年に再興された「えびす祭」も、今年で十周年十一回目を迎えます。その前年九月の天満天神繁昌亭の開席を機に六十数年ぶりに再興されました。が、吉兆福筐や縁起物の授与などの神賑行事も定着していました。

当宮のえびす祭は、昭和二十年後半から神事のみを斎行し、神賑行事を控えてまいりました。また、往時のえびす祭の賑わいを復活し、皆さまにも喜んで頂くために再興した次第です。

この十年の間、試行錯誤を繰り返しながら、何とか当宮なりの形が見えたようになり、また、第二次世界大戦後には種々の事情から、古例に従つて十日朝に本殿第五殿から蛭子遷殿へお遷し祭儀を奉仕した後、夕刻になつて御本社第五殿へお返し申し上げるど

一つの信仰を定着させるためには、長い年月を要するものです。商いと同様、「牛の誕」のように細く長く絶え間なく、努力するのが肝要なのが、前進できているようにも思いました。

もちろん、氏子の皆様にも大変な手探しの状態でした。他の神社の様子などを参考にしながらも、どうしたら他社と違う特色を出せるのかと思案を重ねてまいりました。

もちろん、氏子の皆様にも大変な手探しの状態でした。他の神社の様子などを参考にしながらも、どうしたら他社と違う特色を出せるのかと思案を重ねてまいりました。

いうしきたりを、厳粛に守つてきたのでした。

現在の天満天神えびす祭

平成十九年の再興後、さまざま行事企画を行つてきました。「北新地招福行列」「御神酒振るまい」「甘酒振るまい」や、神楽所の新設など、古例をたどるばかりではなく新しい試みも工夫し続けています。

今年も新たな記念行事を行い、皆様に楽しんで頂こうと考えております。

- ①会場内での景品付き福餅まき
- ②天満天神繁昌亭での記念奉祝落語会

③御本殿登竜門に参入しての第五殿のえびす大神を拝礼する本殿通り抜け参拝

これらの祝賀行事を加えて、さらに充実した楽しいえびす祭にしたいと考えています。今年はひと味ちがう切れるほどの混雑であつたと記録されています。しかし、第二次世界大戦後には種々の事情から、古例に従つて十日朝に本殿第五殿から蛭子遷殿へお遷し祭儀を奉仕した後、夕刻になつて御本社第五殿へお返し申し上げるど

天満天神えびす祭・招福娘

えびす祭にお参りの皆様に「笑顔」と「元気」と「福」をお届けする「天満えびす招福娘」が、本年も新しく選ばれました。

招福娘研修会



去る十一月十五日に、招福娘選考のための第一次面接を行い、応募総数約三〇〇名の中から二十名を対象の研修会を開き、招福娘にふさわしい心得や立ち居振る舞いを学んでいただきました。二十四日にはこの二十名を対象の研修会を開き、招福娘にふさわしい心得や立ち居振る舞いを学んでいただきました。装束の着装や、御鈴の振り方など、身につけなければならることは多々あります。選考された招福娘は、この研修を経て、えびす祭当日には皆さまをお迎えいたします。

第七回招福娘代表選考会開催

また十二月六日には、右の二十名のうちから四名の代表を選ぶ第六回代表選考会が開催されました。お集

北村麻琴（神戸松陰女子大三回生）

森田真帆（関西大四回生）

上田夏子（大阪市立大四回生）

山本有華子（関西大三回生）

右の四方には、

代表の証となる「代表襷」が、寺井権宮司より手渡されました。四名がそれぞれ「寒いなかをお参りください」といいます皆様に、

精一杯の福をお受けし、笑顔で笹を

お持ち帰り頂きたいと思います」など意気ごみを述べていらっしゃいました。

登竜門特別参拝

右頁でも触れましたが、本年度から、天満天神えびす祭の復興第十回目を記念して、本殿と拝殿の間に位

置する幣殿の登竜門の特別参拝を行つことになりました。登竜門を通り抜けていただき、商売繁盛祈願をしていただこうという行事です。

ご予約は不要ですので、会社帰り頂きります。出口の吉兆場では、笹や縁起物をお授けする予定でございま

す。商売繁盛の神として知られるえびす様のお祭には、ぜひ登竜門を通り



堂島・北新地えびす詣招福行列

一月六日（金）には、第八回堂島・

ウト協議会（大神S協）があり、大坂天満宮ほか五社が母体となり、B・S・G・S合計七個団が所属し、現在結成四二年を迎えます。

次に安倍晋三自由民主党総裁から本大會に特別に寄せられたビデオメッセージが披露され、BS・GSの連盟歌を合唱



神社スカウト全国大会

ト協議会（以下、全神S協）に所属する約一五〇〇名のボーリスカウト（B.S.）・ガールスカウト（G.S.）達が、三重県伊勢市にある県営総合競技場に集まり、五年に一度の第一回神社スカウト全国大会に参加しました。当宮に本部を置くB.S.大阪第九十八団、G.S.大阪府第八十一団からも、八〇名程の団員が参加し、全国各地から集まつたスカウト達と親交を深めました。

のスカウトらが所属団の团旗隊旗を手に入場行進を行い、三重県神道青年会の奉仕による開催報告祭が斎行され、北白川名譽大会長により開会が宣言されました。次に参加国の国歌齊唱に続き、田中恆清大会長の主催者挨拶がなされ、来賓代表として鷹司名譽大会顧問などから祝辞を賜りました。その後海外招待団に対する歓迎の言葉が述べられました。

次に、神道章受章者に参加者全員から日本スカウトの祝声「弥栄」が贈られま



亭の向かいにあつた
第二文芸館

神社スカウト全国大会

第十二回

八月六日～九日、全国神社スカウト

かつて、当宮北側の「天満天神裏」は、「天満八軒」と総称された落語や講談、女淨瑠璃などの小屋が立ち並び、大阪有数の芸能街としてその名を馳せていました。

本年秋のNHK朝のドラマは、現在の吉本興業の創始者である吉本せいいを描いた物語が放映されます。実は吉本興業の発祥も、現在の繁昌亭の向かいにあつた「第一二文芸館」橋筋商店街でお練り行事が行われました。八月二十五日には感謝の夜席が開かれ、九月十五日には、天神橋筋商店街でお練り行事が行われました。

天滿天神繁昌亭 開場十周年

の招待客をはじめとして、関係者や一般の観客で埋まり、楽しい一夜を過ごしたのでした。

別公演として、会長の口上や豪華出演者による盛大な落語会が開催されました。

お続刊参拝行矢



ちようど当宮では仲秋明月の「秋思祭」が斎行されていましたので當宮境内から繁昌亭に至る導線は夜遅くまで大変賑わいました。

十周年にあたる昨年の一月には桂春團治師匠が逝去され、また八月には、繁昌亭開設に多大なお力を賜りました天神橋筋商店連合会会長・大坂天満宮総代の土居年樹様が幽世へと旅立られました。

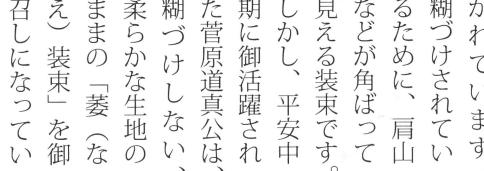
地域の繁栄、上方落語の興隆、当宮御社頭の隆昌を願いつつ、神去り坐しし皆様にも謹んで御報告申し上げたいと存じます。

る心游舎から総裁を務める三笠宮家彬子女王殿下にお見え頂き、「伝え

うに思えます。
若きスカウトたちや関係者の皆様
に神々のご加護を賜りますようご祈
念してご報告いたします。

くご所蔵されてきましたが、当宮文化研究所の高島幸次研究員の著書『奇想天外だから史実—天神伝承を読み解く』（大阪大学出版会）に掲載されたことを機に、その貴重さを再認識され、御奉納を決意された

くご所蔵されてきましたが、当宮文化研究所の高島幸次研究員の著書『奇想天外だから史実—天神伝承を読み解く』（大阪大学出版会）に掲載されたことを機に、その貴重さを再認識され、御奉納を決意された



当該の「天神画像」は、斧様が長

です。

このたび、大変貴重な「天神画像」が当宮に奉納されました。ご奉納くださいましたのは、これまでにも当宮「どんどこ船講」世話人として御奉仕をいただいてきました斧靖博様

大東市の斧靖博様

「天神画像」を御奉納

ものです。

去る十二月五日十一時、斧様は奥

さまとともに来宮、「奉納式」の後

に寺井宮司と歓談され、「末永く大

阪天満宮の御神宝として収藏ください」と話されていました。

●「強装束」と「萎装束」

通常の天神画像は、平安末期から

かかれています。

糊づけされています。

るために、肩山

などが角ばつて

見える装束です。

しかし、平安中

期に御活躍され

た菅原道真公は、

柔らかな生地の

ままの「萎(な

え)装束」を御

召しになつてい

たはずなのです。

そして、このたび御奉納いただき

ましたのも「萎装束」姿の天神様で

すから、大変貴重なものです。その

画像は、改めて本社報で御紹介させ

ていただきました。

現実」を主題に初めて開催されたも

のです。イスラエルのユダヤ教聖職者をはじめとして、インド、中華人民共和国、大韓民国、台湾、ミャンマー連邦共和国などから、仏教や道教、ヒンドゥー教、ジャイナ教、シク教、ゾロアスター教など、アジアの伝統宗教の代表者ら六十名が出席しました。

九月十一日から十五日まで、イスラエルのエルサレムにおいて「イスラエル・アジア宗教指導者の集い」が開催され、当宮寺井種伯宮司が、神道を代表し出席致しました。



その後、外務省に移動して開かれた会議では、各代表者が主題に沿った提言を発表し、その中で、寺井宮司は、まず日本人の信仰心について説明をした上で、第二次世界大戦後の日本と国際社会の歩みを回顧するとともに、提言を行いました。

翌十三日には、国立エルサレム・ヘブライ大学において、現地の学識者も交えた討論会が実施されました。世界の諸問題を解決する際にも不可欠な人々の精神的側面を担うのは宗教者をおいて他にはない、それぞれの信仰により伝えられてきた、叡智と政治の実行力とを協力させて未来を切り拓いていくことが重要だという展望を提言致しました。

その後、外務省に移動して開かれた会議では、各代表者が主題に沿った提言を発表し、その中で、寺井宮司は、まず日本人の信仰心について説明をした上で、第二次世界大戦後の日本と国際社会の歩みを回顧するとともに、提言を行いました。

翌十三日には、国立エルサレム・ヘブライ大学において、現地の学識者も交えた討論会が実施されました。世界の諸問題を解決する際にも不可欠な人々の精神的側面を担うのは宗教者をおいて他にはない、それぞれの信仰により伝えられてきた、叡智と政治の実行力とを協力させて未来を切り拓いていくことが重要だという展望を提言致しました。



西洋的な態度を誠め、神道は神の概念も他のアジアの宗教と異なつてゐることを指摘されました。会期中には、ビンヤミン・ネタニヤフ首相が代表者等と面会し、会合が継続的に実施されることへの期待を表明されました。各宗教が今後も互いに手を携えていくことを約した声明文に調印して会議は閉幕を迎えました。



（代筆・祖父仲野徹）

雨儀の流鏑馬

は馬場を境内
の本殿西側に
設定すること

になります。



いにく午前中から断続的に雨が降り、本年の流鏑馬式は雨儀（雨天時での様式）にて斎行されました。

当宮の流鏑馬の歴史は古く戦国時代の天正十四年（一五八六）以前の起源が伝えますが、矢を射るのではなく、半弓での打ち割る現在の方式は、江戸時代後期の享和元年（一八〇一）ごろに始まつたと伝えられます。

このように方式の変化はあるものの、馬場は表門筋の参道を使つて行われるのが慣例でありました。参道が公道となり、舗装道路となつてからも、その伝統は継承されてきたのです。

しかし、舗装道路となると蹄鉄を付けた馬には大変走りにくい場所となつてしましました。ましてや雨で濡れた路面となれば滑り易くとても危険な状況です。そこで、雨天時に

祓之儀の前あたりからは雨も止みましたが、お陰様で騎射之儀では見事に的を打ち割つて、無事に神事を終えることができました。

本年も御奉仕頂きましたのは、関西大学体育会の馬術部の皆さんです。前駆者 出田 貴大君（三回生） 騎馬「千雄」号 本駆者 明石 良平君（三回生） 騎馬「千王」号 口取り役ほかは、同部々員の皆さんでした。ありがとうございました。

したので、式次第は予定通りに進行しました。お陰様で騎射之儀では見事に的を打ち割つて、無事に神事を終えることができました。

（訓読）夢は迷いて涙に和し水長しそうに流れ、客子の帰心、旅愁に加わる。涼月は幽佳にして、雲動かず、意飛び來たりて作す夜は悠悠。（通釈）夢の枕を濡らす涙、川の流れは永遠に流れ去り、遠く異国に住み、望郷の愁いは加わる。涼しげな月は幽かで雲は動かない、心は遙かなる夜にさまよう。

（通釈）年老いて窓辺での独酌は寂しいので、季節は晚秋星が空一面に輝いている。壁のうちでまだ生き残つてゐるこおろぎが鳴いている。こんな時まで伴侶を求めて鳴いでいるのか、身に浸みる秋、選者の身にも。

（訓読）老来独り酌む、破窓の前、壁裏殘蛩聲切切、猶求伴侶最堪憐。

浪速菅廟吟社詠草

雪枝 松村暁二撰

なる、それにして古人の思いのなんとまあ永い事よ。

いにく午前中から断続的に雨が降り、本年の流鏑馬式は雨儀（雨天時での様式）にて斎行されました。

（通釈）年老いて窓辺での独酌は寂しいので、季節は晚秋星が空一面に輝いている。壁のうちでまだ生き残つてゐるこおろぎが鳴いている。こんな時まで伴侶を求めて鳴いでいるのか、身に浸みる秋、選者の身にも。

（訓読）老來獨酌破窓前、秋杪三更星満天壁裏殘蛩聲切切、猶求伴侶最堪憐。

（訓読）老來独り酌む、破窓の前、

苔菴 揚田 崇徳 三原市

老來獨酌破窓前、秋杪三更星満天

壁裏殘蛩聲切切、猶求伴侶最堪憐。

（訓読）老來独り酌む、破窓の前、

秋杪の三更 星 天に満つ。壁裏の

残蛩 声 切切、猶伴侶を求むは最

も憐れむに堪えたり。

（通釈）年老いて窓辺での独酌は寂しいので、季節は晚秋星が空一面に輝いている。壁のうちでまだ生き残つてゐるこおろぎが鳴いている。こんな時まで伴侶を求めて鳴いでいるのか、身に浸みる秋、選者の身にも。

（訓読）夢を醒ます未だし、乱鳴す秋

芭 繁忙なるに感ず。

（通釈）秋の夜長を独り酒を酌む月の輝く田園の村里の宿。身は暖まりあ

身暖朱顔醒夢未亂鳴秋芭感繁忙

（訓読）独り佳釀を斟めば夜深長く、月下の田園 村里的莊。身暖まりて

朱顔 夢を醒ます未だし、乱鳴す秋芭 繁忙なるに感ず。

（通釈）奈良の書き換え文字。

（訓読）古都奈良の千年の事跡を尋ね塔堂。時々作賦を催し、想いを遺すこと亦何ぞ長きを。

（通釈）奈良の書き換え文字。

（訓読）探勝す千年の跡、天を衝く幾

時時催作賦 遺想亦何長

（通釈）探勝す千年の跡、天を衝く幾

塔堂。時々作賦を催し、想いを遺すこと亦何ぞ長きを。

（通釈）奈良の書き換え文字。

（訓読）獨脚佳釀夜深長 月下田園村里莊

罰があたりそうな気もします。



社務所 電話番だより よくあるお問い合わせ？ 『節句人形の現在』

そこで神社、お寺に納めようといふことになり、大阪では十一月に四天王寺様が「人形供養」を、當宮では五月に「人形祭」を斎行していま

桃の節句にはお雛人形を、端午の節句には鎧兜をお飾りして子供たちの健やかな成長を祈願します。これは、本当に意味深い大切な慣習であり、世界に誇るべき文化であるといえます。

もともとは子供たちの身代わりとして災いを託して海や川に流すための形代（かたしろ）として用いていたものが、だんだんと恒久的な飾り人形に変化してしまっています。

しかしながら、近年はこの文化もまた様変わりしてきているようです。家族は核家族化し、住宅事情は困難を増し、マンションなどで生活が主流となりました。そんな中でも、節句人形は祖父母から贈られたりして多く飾られているようです。しかし、子供の成長にともなつて人形を飾ることもなくなると、今度は保管場所に困るという問題が発生します。思い出の人形などがあつても、広い納戸などのないお家では、人形を出すのはあまりにもかわいそうですし、罰があたりそうな気もします。

第十六回 あの人もこの人も



いにく午前中から断続的に雨が降り、本年の流鏑馬式は雨儀（雨天時での様式）にて斎行されました。

当宮の流鏑馬の歴史は古く戦国時代の天正十四年（一五八六）以前の起源が伝えますが、矢を射るのではなく、半弓での打ち割る現在の方式は、江戸時代後期の享和元年（一八〇一）ごろに始まつたと伝えられます。

このように方式の変化はあるものの、馬場は表門筋の参道を使つて行われるのが慣例でありました。参道が公道となり、舗装道路となつてからも、その伝統は継承されてきたのです。

しかし、舗装道路となると蹄鉄を付けた馬には大変走りにくい場所となつてしましました。ましてや雨で濡れた路面となれば滑り易くとても危険な状況です。そこで、雨天時に

『恋してOSAKA』 「天満天神夢囃子」

通信カラオケ配信へ

いまや天神祭に欠くことの出来ない楽曲として、「恋してOSAKA」と「天満天神夢囃子」の二曲があります。商店街や氏子地域で流れ出すと、今年も祭の季節かと、胸が騒ぎ出す方も少なくないと思います。

当宮の氏子でもある作詞家の喜多條忠氏が、天神祭に里帰りされるにあたって、歌手の尾形大作氏を誘われたことが、この二曲が誕生するきっかけとなつたそうです。

天神祭の素晴らしさに感銘を受けた尾形氏が、ぜひ天神祭の歌を歌いたいと熱望され、喜多條氏が作詞、城賀イサム氏が作曲、葛将包氏が編曲、当宮の寺井宮司が監修



氏

して、平成三年に制作されました。そして、平成二十八年十一月一日から、この二曲が第一興商さんが編成カラオケ「DAM」で配信されています。この二曲は、もともと全国版ではなく、大阪限定販売のCDでしたが、尾形氏が第一興商さんに直接交渉に赴かれ、作品力の良さ、天神祭

の規模や素晴らしさを伝え、先方を説得して配信されることになったのです。

これまで天神祭の神賑行事などではよく耳にしてきた二曲ですが、これからは、天神祭の季節だけではなく、一年を通じて大阪の風俗文化に親しんでいたたく曲として、より一層広く受け継がれていくことを期待したいと思います。

オリジナル朱印帳 出来ました！

昨日、老若男女問わず、朱印帳を手に集印にお参りされる方を多くお見受けするようになりました。

集印のために差し出される朱印帳も、この一年の内に急激にたくさん種類を目にすることになりました。

そんな中、当宮にもオリジナル朱印帳を謹製いたしました。黒色をベースに梅模様を配した、飽きのこないデザインに仕上げております。

写真では判りにくいのですが、紫・ピンク・銀色部分は、光沢の

あるラメの錦糸が織り込まれています。是非、皆様の順拝のお供にお連れ下さい。

9頁にご紹介しました通り、このたび貴重な「葵装束」の「天神画像」が奉納されました。当宮は、現在、二〇点を超える天神画像を大切に収蔵していますが、今回奉納されたものは、それらのかでも、最も古い時代に属します。しかも、その図様は、北野天満宮が所蔵する根本御影と呼ばれる天神画像と瓜二つのです。

本社報の表紙では、隔号ごとに当宮所蔵の天神画像を御紹介しています。このたびの御奉納が編集の進む十二月だったのですから、本号での紹介は見送りましたが、次号では詳しく御紹介できるかと考えています。



編集後記

9頁にご紹介しました通り、このたび貴重な「葵装束」の「天神画像」が奉納されました。当宮は、現在、二〇点を超える天神画像を大切に収蔵していますが、今回奉納されたものは、それらのかでも、最も古い時代に属します。しかも、その図様は、北野天満宮が所蔵する根本御影と呼ばれる天神画像と瓜二つのです。

本社報の表紙では、隔号ごとに当宮所蔵の天神画像を御紹介しています。このたびの御奉納が編集の進む十二月だったのですから、本号での紹介は見送りましたが、次号では詳しく御紹介できるかと考えています。

大阪天満宮社報

てんまてんじん 第71号

平成28年12月25日印刷

平成29年1月1日発行

发行人 寺井種伯

発行所 大阪天満宮社務所

〒530-0041 大阪市北区天神橋2-1-1-8

TEL 06-6353-0025

印刷所 木村印刷株式会社